

事務局 技術部



1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさを守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナリプで目標を達成しよう



RPAの活用による業務効率化

RPA

(ロボティックプロセスオートメーション)

事務局
(財務部)

運営

8 働きがいも
経済成長も



9 産業と技術革新の
基盤をつくる



【活動概要】

「少子高齢化による生産年齢人口の減少」や「育児や介護との両立・働き方の多様化」を考慮し、「ムリ・ムラ・ムダ」の無い生産性の高い業務プロセスを実現する必要があります。

当該プロセスの実現に向けて、契約課の業務のひとつであり、多くの時間を要す「手作業による伝票起票業務」は、定型的業務であることから、自動化に期待ができます。

当該業務を、RPAソフトである「Power Automate for desktop」で記録することにより、自動化しております。

今後は、自動操作の精度向上、自動化する業務の拡大を予定しており、いずれ定型業務の全てを自動化することを目標としております。

【自動化対応中】

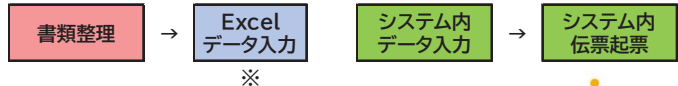
- ・ 消耗品費について財務会計システム上で
支出契約決議書起票、未払伝票起票(⇒実施例・右)
- ・ 消耗品費について科研システム上で
科研決議書起票
- ・ 運送料、光熱水料、総合複写 未払伝票起票

RPA導入前



※ 10画面以上を遷移し入力、起票。全て担当者の手作業によるもの。

RPA導入後



※ RPAにシステム入力させるためのデータを用意。
以降は担当者の手作業をRPAで自動化。



【担当】財務部契約課 消耗品係

サステナブルキャンパス※ 形成の推進

(※ 教育・研究・社会連携・キャンパス整備をととして、持続可能な社会の構築に貢献する大学)

事務局
(施設環境部)

大学運営



【活動概要】

「鳥取大学環境憲章」及び「鳥取大学カーボンニュートラル宣言」に基づき、サステナブルキャンパスの形成を推進します。

省エネルギー及びカーボンニュートラルに向けた取組

ソフト的には学内エコアクションパトロールにより省エネ意識を高める他、光熱水の使用量を学内イントラネットに公表することによる省エネ情報共有をし、意識啓発しています。ハード的には現在ある機器(主に空調・照明)を高効率機器に更新し、また建物自体を高断熱化することにより省エネ・カーボンニュートラルに寄与しています。



省エネ

①アクティブ技術

(エネルギーを効率的に利用するための技術)

- ・ 高効率空調
- ・ 高効率換気
- ・ LED照明 など



②パッシブ技術

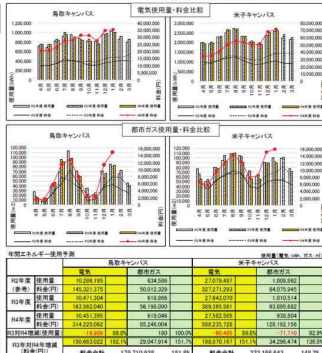
(建物内の環境を適切に維持するために必要なエネルギー量(エネルギーの需要)を減らすための技術)

- ・ 自然換気、昼光利用
- ・ 高断熱化
- ・ 日射遮蔽など



カーボンニュートラルに資する改修工事

省エネに関する意識啓発



化学物質の適正管理

教育・研究においては、環境や健康に有害な化学物質を使用することがあるため、その適正管理を徹底するとともに、汚染防止に努め、大学及び地域の環境保全と健康被害の未然防止を図っています。このため、化学物質及び排水の管理に関して、定期的な研修会を開き、誤った化学物質の管理をしないよう、学内教育を行っています。

なぜ研修会が必要なの？ Why is the workshop needed?

私たちの大切な自然環境を守る
For protection of nature and environment

- ・ 下水道法 (Sewerage Service Act)
- ・ 水質汚濁防止法 (Water Pollution Control Act)

鳥取大学での取り組み

○鳥取大学排水管理規程
(Drainage Management Rules in Tottori Univ.)

・第3条(教育)
学長は、排水管理について、全学的な教育を定期的に実施するものとする。

President makes all members in Tottori Univ. attend the workshop on discharging water management.



少なくとも、教職員・学生は3年に1回の受講が義務付けられています。
Students should participate in a training seminar for discharging water every three years.

必要措置: 保護眼鏡、不透性の保護衣、保護手袋又は履物等、適切な保護具を使用させる。

ホルムアルデヒド、グルタルアルデヒド等

必要措置: 保護眼鏡、不透性の保護衣、保護手袋又は履物等、適切な保護具を使用させる。

保護手袋 耐薬品長靴 保護眼鏡 化学防護服

努力義務 2023年4月1日施行 義務 2024年4月1日施行

【担当】施設環境部

地域に根付いた科学啓発活動
鳥取大学発「出前おもしろ実験室」プロジェクト

技術部

社会貢献



【活動概要】

「出前おもしろ実験室」は、子どもたちに理科・科学への興味・関心を深めてもらうことを目的として行う出張形式の体験型科学実験教室です。

技術部では、平成18年に「鳥取大学発『出前おもしろ実験室』プロジェクト」を立ち上げ、これまでに延べ8700人以上の子ども達に科学のおもしろさ・楽しさを伝えています。小中学校だけでなく、特別支援学校や聾学校、保護者からの実験室開催依頼や、小学校教員からの授業支援・教員向け研修会の依頼が多く寄せられており、広く科学教育に貢献し、地域のイベントや公民館事業を通して「理科好き」の子どもが育つ環境づくりに寄与しています。技術職員が持つ化学、電気、機械等の様々な分野の専門知識を活用した「出前おもしろ実験室」を提供することで、子どもたちに科学や工学、ひいては鳥取大学の魅力を発信しています。更に、アート要素のある科学工作やロボットのプログラミング体験などを試み、STEAM教育を目指しています。

また、プロジェクトに興味を持った本学学生とともに活動しており、子どもたちへの実験指導や実験教材の開発、研究会への参加などを通して本学学生の科学力・人間力向上につなげています。



小学校での実験室の様子



中学校での実験室の様子



小学校教員向け研修会の様子

【担当】 技術部

